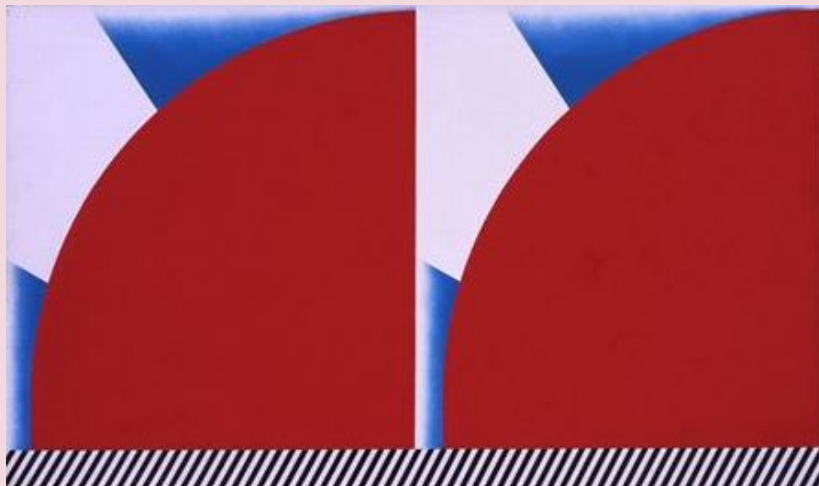




南 薫造《小童》
1909(明治42)年、油彩・画布



菅井 汲《SOLEIL ET SOLEIL(ソレイユ・エ・ソレイユ／太陽と太陽)》
1968(昭和43)年、アクリル・画布

美術館のこども部屋 ver.2

アートな宿題

Children's Room in the Museum ver. 2 Artistic Homework

May 29 (Thu)–September 23 (Tue/Holiday)

平成26年 (2014) **5.29木—9.23火・祝**

会場 2階 彫刻展示スペース、第1室、第2室



黒光茂樹《青桐》
1953(昭和28)年、紙・彩色・額装

※金曜日は20:00まで開館延長あり
※入館は閉館の30分前まで
休館日: 月曜日(特別展会期中、祝日及び振替休日は開館)
入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円
高校生以下無料
縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円
※()内は20名以上の団体



名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜

広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL (082) 221-6246
http://www.hpam.jp/ FAX (082) 223-1444



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m
- 広島駅新幹線口から、ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス/9:00~17:30の間、毎時0分30分発。)/「広島県立美術館前」下車(白島線沿い)

【HPAM(エイチパム)コレクション展】

広島県立美術館では、これまで「所蔵作品展」として開催してきた当館の所蔵作品展示について見直しを行い、平成26年4月から「HPAM(エイチパム)コレクション」展として一新します。(HPAM(エイチパム)とは、広島県立美術館の英語表記「Hiroshima Prefectural Art Museum」の略称です。)



広島県立美術館の公式ロゴから新たに「HPAM(エイチパム)コレクション」展のロゴが誕生しました。

【平成26年度運営目標】

『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる

当館の平成26年度の運営目標を「『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる」として、お客様の視点に立って、当館のコレクションの美を楽しく、わかりやすくお伝えします。

県民の皆様へ、当館所蔵のコレクションの宝を再発見し、これまで以上に感動していただける展覧会をお届けするため様々な取り組みを行います。

【取組内容】

生まれ変わった「HPAM(エイチパム)コレクション展」で、
私たちは「美」の楽しさをやさしい気持ちで伝えるために様々なことにチャレンジします。

- 展覧会の企画意図や展示作品等、内容がわかる鑑賞ガイドの作成・配付を行います。
- 学芸員によるキュレーターズトークやワークショップなど、より充実したイベントをお届けします
- ギャラリーガイドを毎日開催！作品をより深く知っていただくために、当館では、毎日、広島県立美術館友の会によるギャラリーガイドを行います。
(平日:14:00～、土・日・祝日は11:00及び14:00～※休館日を除く)
- 「学芸員のお奨めの一点」をホームページ及びプレスリリースにて随時御紹介！
- 会場内での携帯電話やスマートフォン、iPad等のタブレット端末機による検索を自由に行っていただけます。気になる作品情報は、その場でチェック！
- 作品との写真撮影もOK！お気に入りの作品の前で記念撮影等もしていただけます。
※一部作品に限ります。



このマークが掲示されている作品は撮影可能です。

【美術館のこども部屋について】

美術館のこども部屋は、美術館の中にこどもが楽しめる展示室を作ろうという企画です。

本展では、作品に対する自由な発想、自由な楽しみ方を発見し、多様な価値観を持った、豊かなコミュニケーションの可能性を引き出すことを目的としています。

例えば、本展でも実践している「意味生成的な美術鑑賞」は、美術作品にまつわる歴史や固有の情報をもとに作品を鑑賞するのではなく、作品に対する自分の感じ方や考え方をもとに作品の意味を生成することで鑑賞するという方法です。この鑑賞方法に他者との「対話」が加わると、それは個々に意味を生成することから、生成した意味を他者と共有する行為へと進化します。それは、現代の教育において重視されているコミュニケーション力を育むこと、美術を通して人間形成を目指す教育方法に一致するものです。

美術館のこども部屋では、自由な発想、自由な楽しみ方の発見を促す鑑賞方法を取り入れながら、さらにはコミュニケーション力を育む展示を行い、それらが美術鑑賞だけでなく、大きく子供達の未来の糧となることを期待し、開催します。

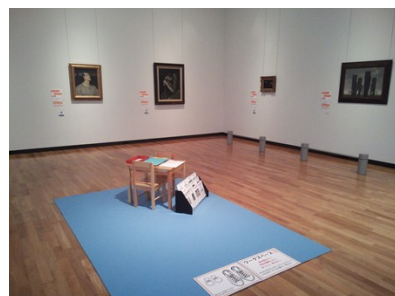
【「美術館のこども部屋ver.2 アートな宿題」について】

本展は、昨年開催した「美術館のこども部屋ver.1 ケンピの宝物。名作ってなんだろう？」の続編となる展覧会です。

本展では、学校教育における主要な4教科である国語、算数、理科、社会を切り口に当館のコレクションを展示しています。これは、子供達の身近にある事柄と美術作品を関連させることで、より美術作品に親しみをもってもらうことを目的としています。

展覧会の切り口を主要な4教科とする一方で、展覧会の中には美術鑑賞で有効とされている鑑賞方法をいくつも散りばめています。先に紹介した「意味生成的な美術鑑賞」もそれにあたりますが、その他、同じ主題でありながら異なる表現、複数の作品を比較しながら鑑賞するいわゆる「比較法」を取り入れた展示や展示された作品の中で、ある共通点を見つける「分類法」など、作品の予備知識がなくとも作品に興味を持つことのできる一種の仕掛けを作っています。これらは、さまざまな展覧会へ応用の可能な、まさにアートを楽しむための魔法です。

さらに、展覧会会場の入り口では、ワークシート「アートな宿題」を子供達に手渡します。そこには、美術館のルールはもちろん、美術館からの宿題として、鑑賞をうながす“きっかけ”を掲載しています。ワークシートを鑑賞の補助教材として、鑑賞を進めることで、自分なりに作品を楽しむ方法を発見してもらえれば幸いです。



※写真は昨年開催「美術館のこども部屋ver.1 ケンピの宝物。名作ってなんだろう？」の展示室の様子。

【内容紹介】

○国語:アートな感想文。書いてみよう。

彫刻展示スペースでは、「国語:アートな感想文。書いてみよう。」と題して、作品を展示します。展示室を見渡せば、そこにはある共通点が見えてきます。ここに展示されている作品はすべて、“人”もしくは人に関することをテーマにした作品たちです。このスペースでは、これらの“人”を主人公にして物語を考えながら作品を鑑賞します。

例えば、明治か昭和前期にかけて活躍した浮世絵師で日本画家の北野恒富《風》(前期:7月28日まで展示)は、画家が30歳代の作品。若干20歳で月刊新聞「新日本」の小説挿絵を描き挿絵画家としてデビューし、すでに人気挿絵画家であった梶田半古の作品にも影響を受けながら、同時に洋画の画法研究も行い、独自の画風を確立しました。彼の作品は、さまざまな物語を連想させる描写、それらが生み出すどこか退廃的な雰囲気の特徴とし「恒富風美人画」と呼ばれ、本作においても描かれた女性の着物を抑えるしぐさ、舞い散る落ち葉からタイトルにある“風”を連想させます。その効果もあってか、どこかへ急ぎ向かう女性の心情や物語までも想像させてくれるのです。

これら作品鑑賞のヒントとなるが作品の隣に掲示してあるキャプションです。作品タイトルは、作家がつけている場合もあれば、作家の周囲の人がつけている場合、作品の持ち主がつけている場合など様々ですが、いずれにしてもその作品のことを短い言葉で説明しています。目の前の作品とキャプションの情報から、想像をめぐらせて作品を楽しむ方法を体感してみたいはいかがでしょうか。



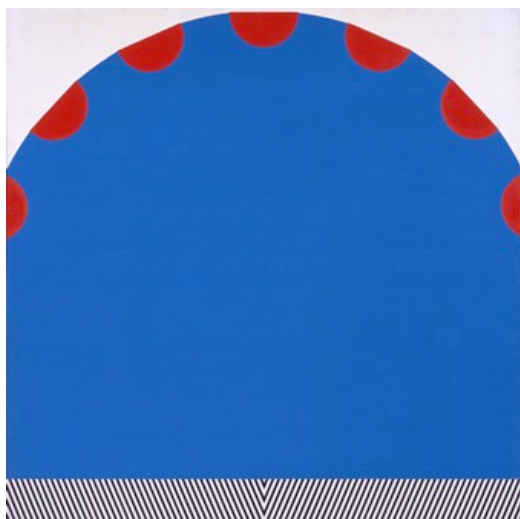
北野恒富《風》1917(大正6)年、絹本彩色

○算数:アートな図形。あなたの好きな組み合わせは？

第1室では、数字や幾何学的な図形をモチーフとした作品をご紹介します。まず、展示室の入口で最初の問題を投げかけてくれるのは山田光《消えた 1》です。山田光は、壺や皿といった日常に使っている形にこだわらず、立体的で独特な形をしたオブジェといわれる芸術としての陶芸を生み出し、前衛陶芸グループ「走泥社」を結成しました。まるで、なぜなののようなタイトルをもつ本作も、それに類する作品です。作品に作られている10個の「1」。その中で、一つだけ「1」はくり抜かれて作られています。作者は、消えることによって、生み出された「1」を指してこのタイトルをつけたのでしょうか。はたまた、ここで掛け算をすると消えた「1」がすべてを相殺し答えは「0」になってしまいます。では、引き算をしてみると...など、作品を鑑賞しながら、誰も思いつかない「答え」に思い巡らせることのできる楽しさは、本作の大きな魅力といえるでしょう。



山田 光《消えた 1》 1976 (昭和51)年、陶



菅井 汲

《SOLEIL BLEU(ソレイユ・ブルー／青い太陽)》
1969(昭和44)年、アクリル・画布

一方で、幾何学的な図形をモチーフとした作品たちは、幅の広い年齢層で楽しむことのできるオールラウンドプレイヤーです。未就学児の中でも4、5歳の子供の鑑賞において活発に表れるのは、作品の中から知っている物を「言い当てる」行動です。この行動は、認識能力が日々発達する過程にある子供たち自身の能力を発揮したいという気持ちに由来していると考えられます。その中でも、単純な図形と色は、子供達にとって親しみやすいものの1つです。

例えば、鮮明な色彩と形を特徴としている菅井汲の作品を前に「作品の中に何色がある?どんな形がかくれている?」と聞いてみてはどうでしょうか。そして、質問が簡単すぎるようならもう少し高度に「なぜ“青い”太陽を描こうと思ったのかな?」など、対話しながら、作品を楽しめば鮮烈な作品の印象とともに鑑賞の体験は忘れがたいものになるはずです。このスペースで存分に子供達とコミュニケーションを図ってもらえれば幸いです。

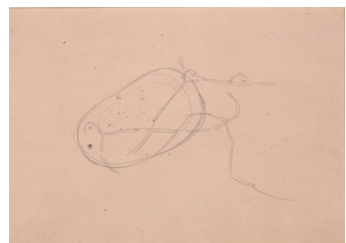
○理科:アートな観察日記。じっくり見てみよう。

夏休みの宿題の代表といえば、観察日記。植物の成長過程を毎日記録する観察日記は、子供たちに命の不思議さと尊さを伝えてくれる大切な宿題です。ここでは、作品の中で様々な表現される生き物にスポットを当て展示します。その中でも、画家たちがどのように植物を見つめているのか、それをダイレクトに感じることができるよう展示する広島(深安郡神辺町)出身の日本画家・金島桂華《冬瓜》とそれに関するスケッチやエスキースは見どころの一つです。彼の花鳥画における「対象をよく観察したうえで、細部描写や背景を省略し、簡潔明瞭な形象によって画面を形づくるところに特色がある」とされる通り、スケッチやエスキースを同時に展示することで観察する目と表現する力の両方を感じることができるのです。

この他にも、「理科:アートな観察日記。じっくり見てみよう。」では、植物、鳥、虫、海をモチーフにした作品を複数展示しています。それぞれは、日本画、洋画、工芸などジャンルも作家も異なりますが、比較することで共通点や違いを見つけることができるでしょう。目の前の対象を観察することに止まらず、そこから表現することの可能性をぜひ体感してみてください。



金島桂華《冬瓜》
1955(昭和30)年、紙本彩色・額装



金島桂華《冬瓜》
1955(昭和30)年、鉛筆・紙

○社会：アートな地理。どんな場所かな？

最後のスペースとなる「社会：アートな地理。どんな場所かな？」では、日本とヨーロッパの“ある場所”描いた作品を展示しています。ここまでは美術作品にまつわる歴史や固有の情報なしで作品を楽しむ方法を提示してきましたが、ここでは作品について調べることの楽しさを感じるために「いつでもワークショップスペース 作品について調べてみよう」を設け、作品や作家に関係する本から場所に関する本まで(時には関係のない本も)設置し、自ら知ることの楽しさを伝えます。

例えば、南薫造《ロンドン河畔》について、描かれている場所について調べてみてはどうでしょう。ロンドンは、テムズ川河畔に位置し、川はロンドンの大きな地理的特徴だということがわかります。また、雨の日が多いという印象も、この作品と一致しているかもしれません。

続いて、作家について調べてみるとどうでしょう。広島県呉市出身の南薫造が東京美術学校を卒業後、渡欧しパリやロンドンに滞在していたということがわかります。さらに、画家の略歴から描かれた年を考えると、20代前半という若いころの作品であること、さらにはイギリス留学して一年以内に描いたということがわかります。まだ、海外旅行さえ難しかった明治期に20代という若さでイギリスへ渡り、絵を学んだ画家の気持ちを想像するだけで、作品への理解は深まります。

展覧会の会場にあるキャプションには、多くの場合、作品名、作家名、作家の生没年、制作年(作品を作った年)、素材などが明記されています。ここから、作品について自分の思うままに調べていくと、誰も知らないあなただけの作品の秘密を知ることができるかもしれません。

※当館1階には、図書室が併設されています。そこには、美術関連の専門書や展覧会に関する書籍などを開架しています。



南 薫造《ロンドン河畔》
1908(明治41)年、油彩・画布

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も**本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。**

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 事業推進課 山本恵子

【関連イベント】 ※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

トークイベント

場 所: 2階展示室

参加料: 無料 ※要入館券(高校生以下無料)、事前申込不要

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが、HPAMコレクション展についてわかりやすく解説します。

日時: 平日14:00~/土日祝11:00~、14:00~(1時間程度)

※ただし、9月6日14:00の回は休み

※毎月第4土曜日11:00~は、小学校及び特別支援学校小学部第5-6学年の児童と保護者の皆様を主な対象に、“親子ギャラリートーク”として実施します。(30分~1時間程度)

おとな向けギャラリートーク「戦時下から戦後。美術から見る平和のカタチ」

日時: 8月2日(土) 13:00~ (30分程度)

講師: 山本恵子(当館指定管理者学芸員)

対象: 大人

こども向けギャラリートーク「平和ってなんだろう? みんなで感じる平和のカタチ」

日時: 8月16日(土) 13:00~ (30分程度)

講師: 山本恵子(当館指定管理者学芸員)

対象: 小学1年生~6年生まで

講 座

場 所: 2階展示室

参加料: 無料 ※要入館券(高校生以下無料)、事前申込不要

おとな向け講座「こどもと一緒に美術館を楽しむ方法」

こどもを美術館に連れて行きたいけれど、どうやって楽しめばいいかわからない。そんな疑問をちょっとだけ解決できるかも...というお話です。

日時: 7月13日(日) 13:00~ (30分程度)

講師: 山本恵子(当館指定管理者学芸員)

対象: 大人

こども向け講座「学芸員のおしごと(実技少々あり)」

学芸員ってどうやってなるの? 何を勉強したらいい? 学芸員の仕事を少しだけ覗いてみませんか?

日時: 8月17日(日) 10:30~ (90分程度)

講師: 福田浩子(当館主任学芸員)

対象: 美術館学芸員という仕事に興味のある生徒・学生

その他

日 時: 7月4日(金) 17:00~19:30

受 付: 2階ロビー

場 所: 2階展示室

参加料: 無料

対 象: ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで情報配信されている一般の方

特 典: 実施当日限り、本展にご招待

※要入館券(高校生以下無料)、事前申込不要

【関連イベント】※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

ワークショップ

場 所:2階ロビー

講 師:山本恵子(当館指定管理者学芸員)

定 員:15名

申込方法:ワークショップ名、参加者・保護者のお名前、年齢(こどものみ)、電話番号を添えて、お電話にてお申込みください。

※入館券不要(高校生以下無料)、要事前申込

※未就学児の方には保護者の付添をお願いします。

「アーティストは観察の達人? 観察して描いてみよう。」

日 時:7月20日(日) 10:30～ (90分程度)

対 象:4歳～小学6年生まで

「あなたはどんな人ですか? お話を作ってみよう。」

日 時:7月27日(日) 10:30～ (90分程度)

対 象:小学1年生～小学6年生まで

「フロッタージュに挑戦? あなただけの博物誌を作ろう。」

日 時:8月3日(日) 10:30～ (90分程度)

対 象:4歳～小学6年生まで

「カタチとカタチ? 組み合わせて描いてみよう。」

日 時:8月23日(土) 10:30～ (90分程度)

対 象:小学1年生～小学6年生まで

「美術館でかくれんぼ? 作品を見てみよう。」

日 時:8月31日(日) 10:30～ (60分程度)

対 象:4歳～6歳まで



※写真は昨年開催「美術館のこども部屋ver.1 ケンピの宝物。名作ってなんだろう?」関連ワークショップの様子。

【問い合わせ先】

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 事業推進課 山本恵子